

釧路市教育委員会 平成30年第17回12月定例会会議録

1 日時：平成30年12月19日（水）16時30分から17時20分まで

2 会場：釧路市教育委員会室

3 出席者

岡部義孝教育長

（教育委員）

山口隆委員、松尾千穂委員、種村俊仁委員、小出美貴子委員

（事務局）

川畑生涯学習部長、高松教育指導参事、江縁学校教育部長、
藤岡総務課長、高木教育施設調整主幹、小野施設計画主幹、
土江田総括指導主事、仲谷学校教育課長、米田学校給食課長、
和田北陽高等学校事務長、澤口生涯学習課長、松本オープンカレッジ推進主幹、
永井美術館長、工藤スポーツ課長、北澤国体推進室長、
佐藤博物館長、古賀動物園長、松本ふれあい主幹、
牧野阿寒生涯学習課長、山田音別生涯学習課長

4 議事録署名人 山口委員、小出委員

5 傍聴人数 0人

6 提出案件

【公開案件】

報告事項

- (1) 平成30年第4回釧路市議会12月定例会の議決結果について
- (2) 平成30年第4回釧路市議会12月定例会の審議内容について
- (3) 学校の現状について

7 会議内容

【公開案件】 報告事項

- (1) 平成30年第4回釧路市議会12月定例会の議決結果について
- (2) 平成30年第4回釧路市議会12月定例会の審議内容について

(藤岡総務課長)

先の定例教育委員会において議案として審議、承認いただいた教育委員会に関わる補正予算案2件と、こども育成課からの提出と常任委員会で報告した「釧路市立音別認定こども園条例」の議案について、記載のとおり釧路市議会12月定例会において、全て原案どおり可決、承認されたことをご報告する。

また、釧路市報告第39号の「専決処分報告の件」について、報告が完了していることをご報告する。

引き続き、審議内容については、私と生涯学習部長から報告する。

まず平成30年第4回釧路市議会12月定例会、学校教育分に関わる一般質問の概略を説明する。

公明党議員団 河合初恵議員より、キャリア教育の充実に関しクルーズ船を入港に合わせて英語による接客の職場体験の推進について質問があり、学校教育部長より、職場体験と英語教育、おもてなしの心の育成とを複合的に結びつけて行うことが可能かどうか、英語以外の言語への対応や指導者の確保などの課題もあり、また、ひとつにまとめることにそれぞれの事業として有益な効果が得られるかなどを含め、今後研究してまいりたい旨お答えした。

市政進クラブ 松永征昭議員より、小学校英語教科化に伴う教員の指導力向上や、ALTを活用した英語力向上の取組についての質問があり、学校教育部長より、英語力向上研修など、英語力・指導力向上などを目指した研修会をより一層充実させてまいりたい旨お答えした。

また、教育長より、ALTの派遣については教員への補助、子どもに生きた英語を届けるという2つの側面でALTの効果が非常に高いと認識しており、今後しっかり議論してまいりたい旨お答えした。

同じく、松永議員より、地域連携特例校の取組に関し、阿寒高校の存続についての質問があり、学校教育部長より、阿寒湖畔地区からの通学費助成や阿寒町行政センターでのインターンシップ受け入れなど、これまでの取組を継続していくとともに、さらに様々な施策を講じるため、まち・ひと・しごと創生総合戦略に阿寒高校の存続を想定した文言を附記し、今後とも、学校、地域としっかりと連携を図りながら存続に向けて努力していきたい旨お答えした。

市民連合議員団 宮田団議員より北陽高校における海外への修学旅行について質問があり、学校教育部長より、保護者のニーズの把握や国内の見学地との比較による優位性の検討など、情報収集に努めていきたい旨お答えした。

新創クラブ 大越拓也議員より、文化活動のための学校開放の推進について質問があり、学校教育部長より、文化芸術の振興のために活用することが望ましいとしつつ、校舎の機械警備や玄関の施錠等の管理運営における課題が多いこともあることから、来年度より大楽毛中学校でのコミュニティ・スクールの取組として学校図書の出しを試験的に行う事例などを踏まえ、課題などを整理した上で、可能性を見極めていきたい旨お答えした。

同じく、大越議員より、社会教育主事についての市の認識、および社会教育主事の資格を有する者を統括コーディネーターに配置すべきと質問があり、教育長より、社会教育と学校教育の連携・協力関係がこれまで以上に求められている中、社会教育にとどまらず学校教育との関わりを含めた幅広い役割を担うものとして、益々重要になっている旨お答えし、また、統括コーディネーターの配置については、有資格者で、かつ地域や人を熟知し、活動経験が豊富な方にその役割を担っていただく事は、地域学校協働活動のより一層の充実させることができるとともに、学校・家庭・地域の連携が図られることが期待できることから、そのような人材の有無も含め、可能性について検討して参りたい旨お答えした。

自民クラブ 三木 均議員より、町内会加入率の向上に関し、小中学校の総合的な学習の時間の活用について、共栄子ども町内会・地域もり上げ隊を例に質問があり、学校教育部長より、学校と地域と関わりを深めながら取り組んでいる活動は総合的な学習の時間に限らず、地域清掃や高齢者との交流など様々な形で行われており、これらの活動を通して地域協働の大切さや町内会の意義について理解が深まると考えている。また、共栄小学校の取組については各学校にも情報提供していきたい旨お答えした。

日本共産党議員団 梅津則行議員より、道徳教科書に関する見解について、教科書にある「あいさつ」「かぼちゃのつる」を例に質問があり、学校教育部長より、文部科学省の検定に合格したものであることから適切である旨お答えした。また、「あいさつ」の例では、代表的なものが示されていると認識しており、押し付けるような授業にならないように、教員に指導して参りたい。「かぼちゃのつる」の例では、擬人化したかぼちゃについて先生と子どもたちが考えを深めることを想定した教材である旨お答えした。

さらに、教育長より文部科学省や道教委が示したのもも適宜教材として使用し道徳の授業を進めてもらい、併せて教育研究センターでの研修を通して、しっかり対応していきたい旨お答えした。

日本共産党議員団 松永俊雄議員より、学校施設耐震化 PFI 事業の終了後の維持補修の対応について質問があり、学校教育部長より、工事完了後 8 年間は当該事業者により維持補修を行っており、その後については未定である旨お答えした。

ここまでが、本会議一般質問の概略である。

次に総務文教常任委員会 市長総括について説明する。

日本共産党議員団 村上和繁議員より、労働安全衛生法の改正による教員の勤務時間の管理について質問があり、教育長より、道教委が進める共同利用型システム導入や、財源に対する国の動向などを注視し、今後釧路市として働き方改革の計画を策定する取組の中で、勤務時間の客観的な把握について検討していきたい旨お答えした。

同じく、村上議員より、教員のパワーハラスメントの相談窓口について専門的知識を持つ第3者が担うべきではとの質問があり、教育長より、道教委の指針に沿って対応してきており、相談窓口が学校教育課長と定めるのは、迅速な対応が求められる中では妥当な判断と考えており、相談しづらい状況への配慮として面談以外に、手紙や電話、ファックス等幅広い方法も想定しているほか、教育委員会の女性管理職や指導主事も相談を受けることが適当と思われる場合には柔軟に対応していきたい旨お答えした。

(川畑生涯学習部長)

私より、生涯学習部に関わる一般質問の概略を説明する。

新創クラブ 大越拓也議員より、ベトナムを相手国としたホストタウンの取組状況と今後の方針についてご質問があり、市長より、共生社会実現に向けた取組のひとつとして、パラリンピック競技のパワーリフティング・水泳・陸上の3種目にターゲットを絞った誘致活動を進めており、今後はパラ・パワーリフティング選手の招聘や事前合宿の誘致実現に向け関係団体に赴き、しっかりと話をしていく。市内関係部署が連携することは必要不可欠なことから、観光や産業、文化など、様々な分野で交流や連携を深める絶好の機会として、2020年、更にその先につなげていきたい旨お答えした。

市民連合議員団 松尾和仁議員より、北海道胆振東部地震により発生した大規模停電における釧路市動物園の状況などについてご質問があり、私より、非常用自家発電装置の稼働と休止を繰り返さなければならないことが長時間停電の場合の課題であること、動物の脱走防止体制や餌の確保状況などについてお答えした。

同じく松尾議員より、来年1月30日(水)より当市で開催される第74回国民体育大会冬季大会「イランカラプテくしろさっぽろ国体」についてご質問があり、市長より、全国各地から来釧される皆様に「イランカラプテ」を合言葉に「おもてなしの心」をもってお迎えし、釧路の魅力を全国に発信する大会にしたい旨お答えし、私より、今後のPR活動について、12月からは街頭放送でのPRの実施、市内小・中学校の全児童・生徒に対しPRクリアファイルの配布等を行い、開催機運や歓迎ムードを高めていく旨お答えした。

また、同じく松尾議員より、来年度釧路市民球場で開催される北海道日本ハムファイターズの一軍公式戦が、8月27日(火)、28日(水)の2連戦、平日開催となった経緯についてご質問があり、市長より、日程の決定は球団側の判断であり、やむを得ない側面があるものの、夏休み期間の開催を球団側に要請していく旨お答えし、2日間の滞在期間のうち、福祉施設や学校への訪問などを選手に打診できないか、とのご質問には、教育長より、昨年外国人選手3名が自主的に病院を訪問したこともあり、次年度においても球団側に要請していく旨お答えした。

◎特に意見はなし。

【公開案件】報告事項

(3) 学校の現状について

(高松教育指導参事)

初めに冬季休業の開始について報告する。

来週25日(火)を持って2学期が終了し、23日間の冬休みに入る。年明け1月4日(金)を学校閉庁日としていることから、連続した年末年始の休暇となる。大規模停電による授業確保のため小学校においては、7校が冬休みを短くして全学年または一部の学年で授業を行う予定である。中学校においては、3年生の進路を見越して、計画的に冬休み中に登校日を設け授業を行う学校もあるほか、登校日を拡充するなど授業時数確保に努めている。

また、先週の校長会において、児童生徒に対する生活習慣や交通安全等の指導と併せて教職員に対しては、車のスリップ等による冬型の交通事故、飲酒運転、速度超過等の防止など、服務規律の遵守について指導をお願いしたところであり、この冬休みが大きな事故・非行等がなく、有意義な冬休みになることを願うところである。

次に教育研究センター主催「教育講演会」の開催について報告する、

平成31年2月23日(土)13:30からコーチャンフォー釧路文化ホールで開催する。

講師は、平成の三四郎との異名を持ち、1992年のバルセロナオリンピック柔道競技金メダリストの古賀稔彦氏で、挑戦する姿勢や目標を達成するための心の持ちようなど、選手として、指導者としての立場から想いを熱く語っていただき、有意義な機会にしたいと考えている。委員の皆様にも、ぜひご参加いただきたい。

次に釧路市標準学力検査の実施について報告する。

平成24年度より実施している釧路市標準学力検査を、小学校3年生以上中学校2年生までの国語、算数・数学で12月3日に実施した。当該年度の学習内容の一層の定着を図る上での12月実施であることから、時期を変更した狙いについては、管理職を通して改めて各学校に徹底し、これまで以上に本検査を有効活用しながら、学校の学力向上の取組の充実につなげたいと考えている。

今後、冬休み中には調査結果が出る予定であり、基礎学力検証改善委員会の検討を加えた分析結果を2月中旬に開催する学力向上セミナーにおいて、各学校に説明したいと考えており、委員の皆様にも2月定例教育委員会でご報告できるものと考えている。

最後に平成30年度「北海道教育功績者表彰」について報告する。

釧路小学校の森 敏隆校長が北海道教育功績者表彰を受賞され12月18日、札幌市において授賞式が行われた。森校長は昭和60年以来、小中学校及び教育行政に携わり、特に特別活動や社会教育の分野において、豊富な実践研究に基づいた指導を行っていた。学校経営においては、チーム学校の実現に向け組織的な学校経営や校内研修の充実による教職員の資質能力を図るとともに、地域との連携協働においては保護者、地域と連携した毎月の活動が平成15年度にPTA文部大臣賞を受賞するなど、その実績は高く評価されている。

また、釧路市小中学校校長会会長等の要職を務め、指導力を発揮していることなど、北海道の教育振興に貢献した功績が大であることから今回の受賞となった。

◎この報告について、各委員から次のとおり発言あり。

(山口委員)

教育講演会について、対象は先生と保護者というのが例年の呼びかけの中心だと思うが、話の中身からして、直接子どもたちが聞いてもいいきっかけになる話だと思う。子どもたちへの呼びかけというのはどのように考えているか。

また、土曜活動を導入して4年が経過しており、全市一斉活動日が1年に1回あると思うが、初期の目的がどの程度達成されたのか、そして今後どのような方向に行くのが望ましいのか、そのための課題がどうなのか一番感じているのは学校現場だと思うので、校長会と十分連携を図りながら土曜活動の今後について、そろそろ検証が必要なのではないかと思う。先ほど停電の影響で小学校7校が冬休み期間を短くして授業を確保しているという話もあったが、果たして学校任せでいいのか教育委員会が全体の進捗情報を把握して、ある程度教育委員会としてこうしましょう、という事を学校現場全体に流すことが必要だと思う。学校の独自性や主体性に任せると、校長によってはどのようにやればいいのかわからないという人も中にはいると思う。土曜活動の今後と併せてメスを入れる必要があると感じた。

(高松教育指導参事)

これまで教育講演会で、子どもたちへの呼びかけというのはあまり例がなかった。今回スポーツの柔道教育という事なので、部活動の子どもたちにも声をかけてみたいとは思いますが、対象は中学校か高校生くらいになると思う。

土曜活動は当初導入したときに検討委員会という事で、校長会の皆さんと試行実施に向けての検討を2年ほど重ねて、2年前から年4回で11月あたりに一斉日を設けるようなスタイルで順調にいつているという事で、毎年行っていた検討委員会をなくして必要があれば検討委員会を開いてお互いのすり合わせをするということにした。小学校の英語の導入によって、授業時数が厳しいという事で土曜授業の在り様について最近話題になっており、次年度小学校の土曜活動、土曜授業の持ち方等も含めて、検討する必要があると考えている。

(松尾委員)

オリンピックについて、ベトナムのホストタウンをするという事でベトナムの研修生がいると思うが、研修生とホストタウンに関してのマッチングなどは考えていないのか。

(工藤スポーツ課長)

今の交流計画の中では、ベトナムのオリンピック・パラリンピックの選手が、釧路で合宿をやった場合には、時期が合えば交流の機会を設けたいと考えているし、小中学校にはホストタウン推進校を指定するので、そういう学校と選手団との市民レベルの交流ができればと考えている。具体的になっているものは何もない。

(松尾委員)

ベトナムを選んだ理由はそういうところにもあったと思うので、何かやったらいいのかなと思う。

国体について、学校を訪問した時にのぼりを子どもたちが作っているのを見た。すごくいいことだなと思ったが、あれは子どもたちだけではなくて、大人や地域の人にも浸透できるようなものをもって行ってほしいと思う。

(北澤国体推進室長)

のぼりについては全部で256個あり、開始式、表彰式時にはコーチャンフォー釧路文化ホールに掲示するほか、他4会場に掲示することになっている。

(種村委員)

小学校の英語の教科化について、実際は2020年からはじまるが、今は前倒しで全国で小学校3、4年生で教科化をしている小学校が35%、5、6年生が29%で来年度は50%近くの小学校で取り入れるという話だった。釧路の実態はどのくらいなのか。

(土江田総括指導主事)

今年度に関しては移行措置に入っているので、全ての小学校の3、4年生で15時間外国語活動、5、6年生では50時間取り組んでいる。来年度は10時間プラスして移行措置の取組をしていくところで、2020年には3、4年生で週1時間の35時間、5、6年生では週2時間の70時間行う。

(種村委員)

実際に教える場合に、今はテキストを使ってやっているわけではないが、教科化されて2020年度は評価がつくことになる。その時にテキストは統一されたものを使うと聞いているが、それに向けての先生の指導法的なものは研修的にやっているのだろうか。

(土江田総括指導主事)

研修に関しては、指導主事の学校訪問による指導や研究センターの講座も含めた指導の他に4点ほど取り組んでおり、まずは小中英語教育連携セミナーと言って文科省の調査官や小学校の英語の専門家を招いての講演、演習等をとおした研修会、それから直接子どもたちに教える先生方の英語の力量がある程度高くなければいけないので、英語力向上研修という事で、先生方の力量と直接の英語の時間に授業で使えるクラスルームイングリッシュだったり、授業で使えるテクニックを研修するものが今年度は6回行っている。また、道の事業で小学校外国語巡回指導教員というものがあり、外国語を担当する先生が一人いて、5、6校の学校を回って授業して担任の先生に授業の方法を説くということを3年間ですべての学校を回っている。また、なかなか研究会であったり外国語指導教員に参加できなかった先生については、移行措置、教科化になることを踏まえて書くこと、読むことに関する4つの領域で、気を付けなければならない、取り組まなければならないとことを紙面にしたものを全小学校の先生に配るようにしている。

(種村委員)

阿寒高校に関して、新1年生の定員が満たない状況であり、今後の存続が危ぶまれるという話もあったりして、例えば高校であればその次の大学に向けての勉強や、進学の状態など阿寒高校は進学に対しての取組や資格取得に向けての勉強やコースみたいのものはあるのか。

(高松教育指導参事)

阿寒高校の教育課程の情報については今持ち合わせていないので照会する。